

## FLORA of KOCHI

No. 36

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 春夏編

## ヤマタツナミソウ (シソ科)

*Scutellaria pekinensis* Maxim. var. *transitra* (Makino) Hara

ヤマタツナミソウは、100年ほど前に佐川町で牧野富太郎により採集された後、近年の標本は確認されていませんでした。高知県 RL(2010) 改訂版では、絶滅種に指定されていましたが、その後、県中部の2箇所で開催されています。しかし、その両地点ともシカの食害や除草剤の散布によって、消失の危険性があります(坂本彰氏私信)。本種と近縁他種との区別点を表1に示しました。見落されている可能性もありますので、低山地の明るすぎない切土法面など要注意です。

表1 ヤマタツナミソウと近縁他種の区別点



和名	花期									花冠の長さ(mm)	花の付き方	その他の特徴			生育環境
	3	4	5	6	7	8	9								
コナミキ	薄紫~白									約6	葉腋に1個	果実に翼あり			低地の湿った草地
ヒメナミキ		白色~ピンクがかった白								約6	葉腋に1個	果実に翼なし、小突起あり	花冠はわずかに曲がる。節の毛以外無毛。葉は薄い。		陽光の湿った草地(低地500m)
ナミキソウ					青					18-22	葉腋に1個		花は基部で折れ曲がって直立する。茎は枝をうつ。		海岸近くの明るい乾燥した草地
ミヤマナミキ				薄ピンクがかる						約8	頂生、まばらにつく時に葉腋にもつく		花冠は基部でわずかに曲がる。		林内(500-1000m)
ヤマタツナミソウ				明るい青						14-16	頂生(まばらに一方に偏る)		花は基部から60度に曲がって斜上。果実は赤褐色。		落葉樹林の林縁(500-1500m)
ハナタツナミソウ				青紫						20-25	頂生(一方に偏る)	花は基部から90度に曲がる。	根は長く這う。	葉は膜質、先端尖る。	山の木陰
タツナミソウ				紫~紅紫~白						15-20	頂生、一方に偏る(上部では葉腋にもつく)			葉は紙質、裏面に腺点。	明るい草地(低地900m)
オカタツナミソウ				青紫						18-20	頂生(上部では葉腋にもつく)		根は短く這う。	高さ20-50cm上部の苞葉は4-8mm	林内(低地700m)
シソバツナミソウ				青紫						18-20	頂生と葉腋(一方に偏る)			高さ5-20cm苞葉は1-5mm。	やや湿った山林内(低地400m)

参考文献：Murata, Gen. 1993. *Scutellaria*. Iwatuski, K., K. Yamazaki, D. E. Boufford and H. Ohba(ed.). *Flora of Japan* Vol. III, p.314-321. 講談社サイエンティフィック、東京。  
村田源. 2000. タツナミソウ属. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫(編). *日本の野生植物草本III*. p.75-78. 平凡社. 東京 (ハナタツナミソウの生育環境のみ)

## イヌナズナ (アブラナ科)

*Draba nemorosa* L.

イヌナズナはアブラナ科の越年草で、里山无路傍や畑地、草地に生える高知県ではまれな植物です。

茎には単毛と星状毛が混生し、葉には両面に白い軟毛と星状毛がはえるので、一見白っぽく見えます。花期は3~6月、やや小さめの黄色い花を咲かせます。植物体は高さ10~30cmであるため、春の草地では目立たないことも考えられます。果実は短角果でふつう短毛が生え、長い花柄の先につき、平たく、長楕円形をしています。

古い記録では、旧物部村別府、旧佐川村、旧吾川村名野川、須崎市多ノ郷、大豊町西峰、土佐市宇佐などがあります。2000年代になってからは、本山町と香美市で採集されたのみです。過去の記録は広い範囲で確認されているため、見落とされていることも考えられます。しかし、近年の里地里山の衰退により、本当に少なくなってしまうのかもしれない。





# 高知県の植物 ニュース

## ■ 高知でじわりと増えるチュウゴクアカギ

高知市内で気になる樹木を見かけました。沖縄に自生するアカギ *Bischofia javanica* Blume に似ていますが、よく見るとアカギとは異なりかなり華奢な印象です。そこで、牧野植物園の協力を得て同定したところ、アカギと同属で外来種のチュウゴクアカギ *B. polycarpa* (H. Lév.) Airy Shaw であることが判明しました。

高知市内では百石町の公園や校庭にチュウゴクアカギの成木が植栽され、秋には大量の果実を付けているのが観察されます(写真 1, 2)。果実は鳥に食べられ散布されるため、成木の周辺では広い範囲で稚樹が見つかります(写真 3)。

一方、高知駅の北側や産業道路沿いの街路樹の植え込みからは、萌芽したチュウゴクアカギがよく見られます。これはかつて街路樹として植えられたチュウゴクアカギが伐採され、その切株から萌芽再生しているものと考えられます。高知市役所などに問い合わせた

文・写真：伊藤武治（森林総合研究所四国支所）

ところ、かつては市内各所で「アカギ」を植栽した記録があるそうです。その頃はチュウゴクアカギをアカギと間違っ て植えたようです。同じように間違っ て導入され、チュウゴクアカギが分布を拡大している事例は長崎でも報告されています(中西 2012)。



写真3 高知市百石町付近で見られたチュウゴクアカギの稚樹 (2015年6月15日高知市塩屋崎バス停付近)

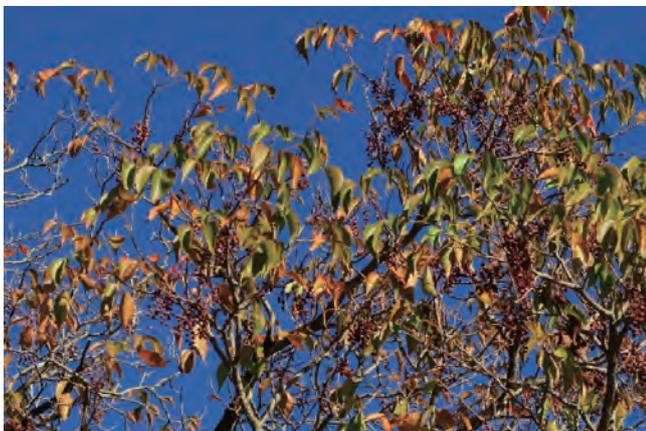


写真1 紅葉したチュウゴクアカギと大量に付いた果実 (2015年12月8日高知市潮江西の丸公園)



写真2 チュウゴクアカギの果実 直径は7mm程度。

### チュウゴクアカギ (トウダイグサ科)

*Bischofia polycarpa* (H. Lév.) Airy Shaw

チュウゴクアカギは中国南西部に分布する落葉高木で、常緑性のアカギとは形態的、生態的特徴が異なります(Li and Gilbert 2008)。チュウゴクアカギは雌雄異株で、樹高 15m、胸高直径 50cm 程になる高木です。3小葉からなる複葉をつけ、頂小葉は通常両側の小葉より大きく、小葉の基部は円形もしくは浅く心形で、鋸歯が 1cm あたり 4~5 個あり、小葉の大きさは 5~9×3~6cm です。総状花序は枝分かれせず、赤茶色の果実は球状で直径 5~7mm です。中国南西部の常緑樹林帯に分布し、中国では広く植栽されています。

一方、アカギも雌雄異株ですが、ときに樹高 40m、胸高直径 2m にも達します。小葉の基部は楔形か鈍角で、鋸歯が 1cm あたり 2~3 個あり、小葉の大きさは 7~15×4~8cm です。円錐花序は枝分かれし、褐色の果実は直径 6~13mm です。分布はチュウゴクアカギよりも広く、中国南西部のほかインド、マレーシア、熱帯オーストラリア、ポリネシアなどに分布し、日本では沖縄に自生しています。

アカギは分布していなかった小笠原諸島に持ち込まれてはびこり、今では侵略的移入種として駆除の対象になっています（大津・伊藤 2007）。アカギは萌芽再生能力が高く伐倒してもなかなか枯れないため、最小限の除草剤で駆除する手法が開発されています（Itou et al. 2015）。高知のチュウゴクアカギについても、今後分布を拡大する恐れがある上、アカギと同様に萌芽再生能力が強いと推測されるため、何らかの対策が必要だと考えられます。とはいえ、チュウゴクアカギは公園などの緑化木として利用されているため、まず雌木のみを駆除して種子の供給を絶つなどの工夫が考えられます。

## ■ 怪しいススキはヨシススキ

旧大野見村の出身で実家に80歳を超える両親がいる私は、月2回ほどの割合で庭の手入れや畑仕事の手伝いのために実家に行っています。そんなある日の朝、高知自動車道の中土佐ICの法面に、ススキに似た植物が群生しているのが目にとまりました。ススキより二回りほど大きい植物。何であるか確かめたいとは思ったけれど、何せ高速道路を運転途中である。路肩に駐車するわけにもいかず、そのままになっていました。

その後、10月(2015年)になって植物園の瀬尾、前田両研究員、鴻上氏とで土佐清水市に出張に行く機会があり、向かう途中の車内でそのことを思い出しました。ススキのようだけど違うその植物について話をしていたところ、中土佐ICを通過した先の高速道路の法面に、パンパスグラスを小さくしたような様子で、大きな穂をつけている株が次々に目に飛び込んできました。はじめに思っていたよりも、ずっと生育範囲は広がったのです。そこで、土佐清水か

チュウゴクアカギがこれ以上分布を広げないように、稚樹の新たな発生やその後の生育状況を監視しつつ、成木を適切に管理することが望まれます。

### 【引用文献】

- Li B. and Gilbert M. G. (2008) 16. BISCHOFIA. Flora of China 11: 217-218.  
中西弘樹 (2012) チュウゴクアカギ *Bischofia polycarpa* (トウダイグサ科) の特徴・植栽の記録と野生化. 植物地理・分類研究 60 (1): 43-45.  
大津佳代・伊藤武治 (2007) 小笠原諸島弟島におけるアカギ根絶の取り組み. 関東森林研究 58: 251-252.  
Itou T., Hayama K., Sakai A., Tanouchi H., Okuda S., Kushima H. and Kajimoto T. (2015) Developing an effective glyphosate application technique to control *Bischofia javanica* Blume, an invasive alien tree species in the Ogasawara Islands. Journal of Forest Research 20: 248-253.

文：黒岩 宣仁

ら帰る途中、四万十東ICを過ぎたトンネルの多い下り坂で勇気を出して車を停車させ、植物を採集しました。

その後、しばらくたって、前田研究員が香川植物の会の久米修氏から、偶然この植物の話聞く機会がありました。生育地や植物体の様子などから、それがヨシススキの可能性があると、ヨシススキについては、同年春すでに徳島県立博物館の茨木靖氏らによって論文発表(茨木ら 2015)されているということでした。

その論文によれば、ヨシススキは学名 *Erianthus arundinaceus* (Retz.) Jeswiet., インドから東南アジア、中国南～中部を経て台湾まで分布するイネ科の大型多年草。最近日本で急速に分布を拡大していて、これまで群馬、神奈川、静岡、島根、香川、愛媛、徳島、宮崎、鹿児島、沖縄の各県で報告されていました。それらは、道路の法面工事等によって意図せずに種子が導入され、法面で育った株から二次的に種子が拡散して野生化することも

ありえるとありました。中土佐町で採集した標本は、幸運なことに比較的すぐ茨木氏にみて頂く機会があり、ヨシススキと同定されています。

私が見た中土佐町の株は、高速道路の工事の際入り込んだものに間違いはないでしょう。しかし、緑化資材としてヨシススキ＝ススキという安易な導入があったのかはわかりません。温暖な高知の沿岸部は、南方系の植物であるヨシススキが入り込む恰好の環境かもしれません。このまま放置していれば、これまでの過去の例に違わず、多くの在来種の生育地を奪うことも考えられます。これ以上拡大する前に、早急に駆除する必要があります。

### 【引用文献】

- 茨木靖・大森 威宏・勝山 輝男・木下 覚・久米修・木場英久・齋藤政美・野津貴章 (2015) 日本国内におけるヨシススキ *Erianthus arundinaceus* (Retz.) Jeswiet.(イネ科)の分布と生育状況について. 植物地理・分類研究 62(2):85-92



写真4 ヨシススキ (2015年10月22日中土佐町)

# information

## ■ 平成 28 年度 分類学セミナーのお知らせ

平成 28 年度の分類学セミナーは下記予定で開催します。年間を通してのお申込も受け付けますので、是非ご参加下さい。

本年度、標本教室は開催しませんが、標本作製について疑問点などがあれば、講師や田邊がお答えします。

場所：本館映像ホールまたはアトリエ実習室

時間：10:00～12:00

### ◆ 5 月 15 日 (日)

#### カヤツリグサ科スゲ属 (内容：中級)

講師：星野卓二氏 (岡山理科大学教授)

定員：20 名

※ 本講座では顕微鏡の使い方もお教えします。

### ◆ 6 月 25 日 (土)

#### ユリ科 (内容：初級～中級)

講師：田村実氏 (京都大学教授)

定員：30 名

### ◆ 7 月 3 日 (日)

#### マメ科マメ亜科 (内容：初級)

講師：立石庸一氏 (琉球大学名誉教授)

定員：30 名

### ◆ 10 月 1 日 (土)

#### キク科アザミ属 (内容：中級)

講師：藤川和美

定員：30 名

お申込は、下記まで。

☎ メール：田邊(kurahashi@makino.or.jp)

瀬尾(akiseo@makino.or.jp)

☎ 電話番号：088-882-2673 (標本庫直通)

☎ FAX 番号：088-882-8635 (代表)

※セミナー直前に詳細をご案内しますので、必ずご連絡先をお知らせ下さい。

※セミナーのみ参加される場合は入園料無料です。

## ■ タンポポ調査・西日本 2015 高知県報告会・講演会

タンポポ調査・西日本2015の調査結果の報告会とそれにあわせて講演会を開催します。講師として、タンポポ研究の第一人者である森田竜義氏(新潟大学名誉教授)をお招きし、高知県に多く分布するシロバナタンポポを中心にお話し頂きます。さらに、午後1時より、タンポポについてより深く議論するセミナーを開きます。

全て一般公開です。お誘い合わせの上ご参加下さい。

日時：2016年3月26日(土)

10:00～11:00 講演会

11:00～12:00 報告会

13:00～15:00 セミナー

場所：牧野富太郎記念館本館・映像ホール

※ 申し込み不要。

※ タンポポ調査にご協力頂いた方々、調査ボランティアとして植物園に登録されている方につきましては、本会に参加されるだけの場合、入園料は無料です。

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田が高知県の植物の問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にしたものを持ち込まれるか、お送り下さい。

植物に関する知識全般への相談は、月・水・金の16時から17時まで、教育普及課の職員が対応しています(Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号の「高知県の植物ニュース」では、最近確認された外来種2種を取り扱いました。チュウゴクアカギについて(国研)森林総合研究所四国支所の森林生態系変動研究グループの伊藤武治氏にご執筆、写真提供を、探してみようでは坂本彰氏にヤマタツナミソウの情報と写真をご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.36の発行担当：前田綾子・田邊由紀・藤川和美

★原稿募集中心! 高知県の植物に関するニュース、トピック  
お待ちしております。